

-臨床研究に関する情報および臨床研究に対するご協力のお願い-

現在、泌尿器科では、本学で保管している診療後の診療情報等と下記の共同研究機関から提供された診療情報等を使って、下記の研究課題を実施しています。

この研究課題の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の研究内容の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。なお、この研究課題の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の診療情報等を「この研究課題に対しては利用・提供して欲しくない」と思われた場合にも、下欄の研究内容の問い合わせ担当者までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

[研究課題名] 進行性・転移性尿路上皮癌に対する全身治療についての後ろ向き検討

[研究対象者]

2000年1月～2024年3月までの間に、東京女子医科大学病院ならびに東京女子医科大学足立医療センター泌尿器科で進行性もしくは転移性の尿路上皮癌と診断され、手術もしくは抗癌剤や免疫チェックポイント阻害剤などの薬物治療を受けた方、あるいは2024年3月以降も同疾患で通院されている方

2000年1月～2024年3月までの間に、済生会川口総合病院、済生会加須病院、戸田中央総合病院、常磐病院で進行性もしくは転移性の尿路上皮癌と診断され、手術もしくは抗癌剤や免疫チェックポイント阻害剤などの薬物治療を受けた方、あるいは2024年3月以降も同疾患で通院されている方

[利用している診療情報等の項目]

診療情報等：診断名、年齢、性別、血液検査・尿検査データ、画像検査所見、膀胱癌の組織型、（手術を受けた場合）手術後の再発および生存の有無、（薬物治療を受けた場合）さらなる進行までの期間および生存期間

[利用の目的]（遺伝子解析研究：無）

膀胱や腎臓、尿管などの上皮（尿路上皮といいます）から発生する尿路上皮癌は、ある程度浸潤していた場合手術が必要となります。また、一定の割合でその後に転移が出現し、その場合には薬物治療を行います。様々な新しい治療薬が開発されていますが、その効果はまだ十分とは言えません。手術と薬物をうまく組み合わせることが重要です。この数十年間で手術治療は大きく進化し、以前に開腹手術で行っていた手術をロボット手術で行えるようになりました。また、薬物では、抗癌剤だけでなく患者さん自身の免疫を利用する免疫チェックポイント阻害薬というお薬が使えるようになってきました。治療方法の選択肢が増えるなかで、これまでの患者さんの治療がどのように行われ、どの方法が良いかを明らかにすることは非常に重要です。本研究では、患者さんに余分な負担を与えることなくこれまでの診療データを分析することで、今後の効率的な選択ができることを目的としています。

[共同研究機関及び研究責任者]

済生会川口総合病院 研究責任者：泌尿器科 主任部長 橋本恭伸

済生会加須病院 研究責任者：泌尿器科 主任部長 小林 裕

戸田中央総合病院 研究責任者：泌尿器科 主任部長 八木澤 隆史

ときわ会常磐病院 研究責任者：泌尿器科 主任部長 新村 浩明

[研究実施期間] 倫理委員会承認後より2029年3月までの間（予定）

[この研究での診療情報等の取扱い]

本学倫理審査委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした診療情報等には氏名、生年月日等の情報を削り、個人が特定されないことがないように加工をしたうえで取り扱っています。

[機関長、研究責任者、および、研究内容の問い合わせ担当者]

機関長：東京女子医科大学 理事長 岩本絹子

研究責任者：東京女子医科大学 泌尿器科 職名 教授 氏名 高木敏男

研究内容の問い合わせ担当者：東京女子医科大学 泌尿器科 氏名 小針悠希  
電話：03-3353-8111（応対可能時間：平日9時～16時）